

新聞・雑誌でも
紹介されています

大阪毎日新聞 200

Naniwa Economy Winning Story

ローカル大阪経済



竹嶋一幸社長

「環境への影響を調べた産業界技術総合研究所での試験、洗剤が水中で生分解されて7日間で無くなることを実証。さらに洗剤力と安全性に関するJIS規格認定を受けた。製品としての能力は十分だが、商品として一般消費者に普及するには、さら

石油原料や香料、防腐剤などの添加を一切含まず、無機天然クレイ・粘土とせっけんだけを併用した天然洗剤を開発。一自然な入浴の衛生・調剤を目標に、環境負荷の少ないエコ洗剤の普及に奮闘している。

開発に取組む以前、竹嶋一幸社長は中高生を対象とした学習塾やパソコンを使用した教育などを手がけ、いわゆる「理系」の研究や開発とはまったく縁のない生活だった。

当時、仕事と両親の介護の両立生活で、大阪の洗剤では除去できない部屋にゴミを排せしめるのに悩まされ、何とかならぬものかと行方不明。「部屋の通気性を改善するために」と、粘土成分のタイプを開発しようと試みた際、その粘土自体に洗浄能力があることに発見したのが、製品開発のキッカケとなった。

製品開発への影響を調べた産業界技術総合研究所での試験、洗剤が水中で生分解されて7日間で無くなることを実証。さらに洗剤力と安全性に関するJIS規格認定を受けた。製品としての能力は十分だが、商品として一般消費者に普及するには、さら

開発当初は粘土そのままでペーパードラッグ店に売ったが、市場ニーズに合わせて液体洗剤化を実現。消費者の多くが使い慣れた合成洗剤に近い使い心地を実現するため、天然成分のままに、粘性を加えることも検討したが、粘着剤を減らすことも検討したが、洗剤力ではまったく影響の無い「ゼロ」も考えられた。

さらに昨年、大腸菌や黄色ブドウ球菌O-157に対する殺菌力も加え、たまたま「この商品の薬味も加えたい」と、セビチンも加えたい」と、竹嶋社長は、商品力と他製品に対する優位性には絶対の自信を持つに至った。

「環境の改善を望んでいたが、今回開発した『ソムリエグラス』シリーズが、無機天然洗剤が普及するきっかけになればと願っている」

家庭用洗剤としての普及は、もちろん、せっけん成分濃度の調整で業務用のさまざまな用途に対応できるように、飲食店や食肉食品工場のほか、ISO取得を目指す企業に機械洗浄などに「ソムリエグラス」も導入してほしい」と、竹嶋社長は意気込んでいる。

竹嶋 一幸社長
(平野西5丁目)

アイキューセンター
http://www.iqcenter.co.jp

見聞録 あきない



除菌効果もプラスした天然洗剤「ソムリエグラス」

環境に優しい天然洗剤

- ★平成12年:TV「ガラスの地球を救え」放映
- ★平成16年:OBCラジオで放送



プレス記者会見

アイキューセンターの竹嶋氏は、両親の介護体験から、環境・人体に有害な人工化学物質を使わない天然洗剤の必要性を実感。今年に入って、米国労働安全衛生法(CAS)認定の天然クレイ(粘土)の抽出液と、植物性脂肪酸カリウム石けんを主原料とした液体石けん洗剤を発表。同氏はこの画期的な新品に大きな期待をかけている。

O-157もノックアウト、環境保全に貢献する液体石けん洗剤

「両親の介護をしていた頃、普通の洗濯ではなかなか落ちない衣服の汚れや、消臭剤を使っても消えない部屋の臭気と戦う毎日でした。そこでアイキューセンターを設立し、学習塾経営の傍ら、臭気を除去できる土壁づくりを始めました。その研究の過程で、焼いたクレイ(粘土)を包丁で切った時、包丁が研いだかのように美しく光ったのです。これは粘土の粒子による研磨効果なのですが、その成分を洗剤に活用できないかとクレイに注目しました」と竹嶋氏。

独学で研究をスタートしたものの、科学的な知識はゼロに等しく、天然クレイ成分や植物性脂肪酸カリウム石けんなどを調合してみても、その効果を確認する日々が続いた。大阪市立工業研究所で殺菌効果実験を繰り返して、科学的な効果も認められ、今年1月努力が実を結び、大腸菌O-157を天然成分で殺菌できる石けん洗剤「ソムリエグラス」を発表。この洗剤

の素である天然クレイ抽出液には、地球を形成する主成分の二酸化珪素が含まれているため、洗浄排水は河川や海でも約7日で完全分解し、水質汚濁を防ぐという。また、ミネラル成分が油汚れに素早く付着してすっきり洗い流し、石けんの弱点である洗浄後のヌメリ感や粘り気のなさも繊密な成分バランスで克服。クレイ成分が手肌を保護し、手荒れの心配もない。

現在は、安全性が特に求められる飲食店・食肉業者・学校給食などに、環境配慮型洗剤として販促を展開。食肉卸業者や大手住宅販売会社の記念品にも採用されているが、商品の浸透具合はまだまだとのこと。「今後は、洗剤の量り売りをする予定です。環境問題に関心のある主婦の方や多角化を考えている商店に販売協力をいただいで、地道に売上げを伸ばしていくつもりです」。

株式会社アイキューセンター
http://www.iqcenter.co.jp/
TEL 06-6700-8701
代表取締役 竹嶋 一幸氏

「開発当初に抱いた熱い想いを大切にして、大阪発で企業・消費者に環境保全を啓発・推進していきたいですね」。


